

(別紙4) 平成 2010 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100151		
法人名	社会福祉法人 寿敬会		
事業所名	第1グループホーム ハルジオン		
所在地	和歌山市井ノ口302-5		
自己評価作成日	平成22年11月22日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/jigyosyoBasicPub.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	和歌山県社会福祉士会
所在地	和歌山市太田1丁目13-1駅前ビル4階F号
訪問調査日	平成22年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

要介護度が高い方や認知症の進行により理解力が低下している方が多いため、ニーズは個々に大きな違いがあるが、柔軟にその方の性格や生活歴、身体レベルに合わせた支援を心掛けている。また、地域との関わりとしては、ハルジオンの畑の収穫を地元の小学生と一緒にに行い、またその小学生が慰問に来てくれたりとお互いに交流している。その他にも地域の祭りや大掃除等にも参加させて頂き、運営推進会議にも地域の方の出席が増えてきている。また、現在家族を対象とした介護相談会を実施しているが、家族の知り合いも含めた地域に開かれた介護相談会等も実施していきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域と共に笑顔で元気 人生のオアシス」の理念の下、地域との関わりや家庭的で最も穏やかに過ごせる空間づくりを目標としてグループホームの運営がなされている。近隣の小学校へはスポーツ大会等に参加したり、児童の訪問を受けたりなど、非常に活発である。また、地域の神社の祭りに出かけたりするなどの楽しみも共有している。行事の際は、家族の方を中心に歌や踊りで楽しんだり、介護相談会を開催するなどの取り組みも行われている。管理者と職員は日々の介護において、入居者のことを第一と考え、介護度の高い方や認知症の進行が見られる方に対して様々に工夫をしながら、積極的な取り組みが行われている。職場も大変風通しがよく、和気あいあいとしたムードにあふれている。過去一年間においては、退職者が一人もいない状況である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に笑顔で元気 人生のオアシス」の理念の下、地域との関わりや家庭的で最も穏やかに過ごせる空間づくりを目標として実践していくよう心掛けています。	理念が事務所の見やすいところに掲げられており、日々の実践に活かされるよう、職員間で話し合いが行われている。「人生のオアシス」とは、以前利用されていた入居者の遺された言葉であり、職員間で特に大切にされている。	理念の共有は職員間では十分に図られているが、入居者には至っていない。今後は入居者との共有も検討されることを期待したい。また書道に心得のある方との連携が図れていることから、こちらの方にも活かされることも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者、職員共に地域の行事に参加したり、ハルジオン行事に地域の方をお迎えし、交流している。	近隣の小学校へはスポーツ大会等に参加したり、児童の訪問を受けたりなど活発である。また、地域の神社の祭りに出かけたりするなどの楽しみも共有している。行事の際は介護相談会を開催するなどの取り組みも行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族等を対象とした会や認知症教室の機会を通じて、認知症の症状や対応についての方法を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議により出た意見等(特に家族の要望が多い)を改善できるように努めている。	運営推進会議では入居者に関する情報を共有し、課題解決の手がかりとしている。また、認知症関連研修の内容の伝達も行われており、会議が活発に機能している。	今後はさらに活発に機能させるために、メンバーをローテーションする、様々な方が参加しやすいよう開催日時を工夫する、等が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、必要事項等については市町村担当者と連絡を取り、協力関係と築けるよう努めている。	運営推進会議を通じて、市役所の支所との連携が図られている。また地区の公民館の館長との連携も図られている。母体法人には市より地域包括支援センターの委託があり、助言・指導において大変有効に機能している。	今後は市役所本庁との連携が期待される。内部研修の講師に招いたり、様々な報告をこまめに行うことも大切であると思われる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止については、施設内での研修を通して、周知し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	身体拘束の防止を徹底するよう、認知症関連研修の伝達がグループホーム内において行われている。現場では、身体拘束となる恐れのある行為がないよう、職員間で互いに注意し合うような取り組みがなされている。	身体拘束の防止には普段からの十分な研修が欠かせないものと思われる。現状の伝達研修に加え、外部講師を招いたり、個々の職員が外部の研修に参加する機会を確保するような取り組みが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の利用者に対し、職員のストレスの軽減にも留意しながら、虐待が起こらない、また、見過ごされないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護や成年後見制度に関する研修会に参加し、伝達しているが、職員の制度の理解は十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最近1年間には新規契約はないが、契約時には、利用者や家族に対し契約書・重要事項説明書の内容を説明し、わからないことがあれば質問して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時には、意見・要望・不満等があれば、表せる機会としており、また、その時に提出した意見等については早急に対応・改善に努めている。	運営推進会議時に表出された意見・要望・不満等には適宜対応している。家族の訪問のあった際は、出来るだけ密なコミュニケーションを図ることを心がけており、信頼関係の構築に努めている。	玄関先に意見箱が設置されているものの、用紙とペンが置かれていない、事務所から見えてしまう場所にある等の状況であり、改善を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等の機会を通じて出た意見については反映させるように努めている。	一月に一度は必ずミーティングの機会が設定されており、出された意見については議論の上、運営上の改善方策となるよう全員での取り組みが見られている。	定期的なミーティング開催については大きく評価できるものである。今後は会議の内容の充実や参加率の向上等について、検討され改善を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の意見を聞く機会を持ち、常に向上心を持ち続けられるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修の機会を通じて、スキルアップをはかるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や他の同事業所見学等の機会を通じて、サービスについての情報交換をし、質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人及び家族との面談の機会を作り、本人の不安や思い、要望等を受けとめられるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の都合や要望に出来る限り応じることができるよう心掛け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がその時に必要としている支援を検討し、他のサービスの利用も視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りに努め、家事等でもできるところは手伝っていただくことで、共に支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や運営推進会議で来訪される機会や、ご家族様宅を訪問する機会を通じて、情報を交換・共有し、一緒に支援する関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの関係を継続し、楽しみを持って頂けるように支援することを心掛けている。	日々の暮らしの中で職員は本人の楽しみや趣味を具体的に把握し、工夫を凝らした対応がなされている。(キャッチボール、バドミントン、読書、ハーモニカ演奏 等)	今後は、本人の昔懐かしい、あるいは馴染みのものを持ち込む等、居室の調度品を工夫したり、食器を馴染みのものにする等の工夫を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症のレベルや性格等に配慮し、無理強いない程度に他との関わりを持つことができるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、その後の支援も行うこと、また、いつでも相談に応じさせて頂けることを常時説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の症状が重度のため、本人の希望や意向を言葉で表現することが困難なため、利用者の視点となり、ケアするように努めている。	認知症の症状が重度のため、職員からの問いかけに「ハイ、イエエ」のみでの返答となる入居者が少なくない。職員はそのような入居者でも意思や意欲を引き出すような取り組みをしようと、日々努力している。	今後はさらに入居者と密なコミュニケーションが図れるよう、研修会の参加等、コミュニケーションや介護技術の向上のための取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の話しや本人の話し、資料等を通じて生活歴や馴染みの暮らし方等についての情報を収集し、それに基づいたケアを提供できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方について記録、申し送りを徹底し、現状を常に把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が希望することや、希望するであろうこと、家族の要望等を聞き、また、日頃のケアの中での職員の気づきを反映し、介護計画を作成している。	計画作成担当者は本人や家族、職員の声をよく聞いて計画作成にあたっている。特に状態変化等、必要性の高い入居者に関しては、3か月に1度の介護計画の見直しを行うなど、意識が高くなっている。	計画作成担当者から「今後は職員への申し送りの中で短期目標についてしっかりと伝えていきたい」との声が聞かれた。他に、ミーティング時に計画について話し合う等の機会確保も期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、口頭での申し送りやノートを活用することで、情報を共有し、計画・実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模で家庭的な雰囲気を目指すホームとして、本人や家族の要望に柔軟に対応できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問、ボランティアの受け入れ、近隣小学校との交流をはかり、楽しみや豊かな暮らしの支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度、協力医療機関より、往診に来てくれており、日頃の体調管理、体調変化等への柔軟な対応に努めている。	毎週定期的かつ確実に医師の往診を受けることが出来ており、次項目の訪問看護と合わせて医療的に大変手厚い体制となっている。また、この主治医の指示にて、他科への受診もスムーズに行われている。	今後はこの主治医とのさらなる密な連携が期待される。また、歯科との関わりのニーズの浮上に合わせて、通院のみならず、往診の機会確保についても期待される。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護ステーションの看護師による医療的支援を受けており、受診の指示や対応についての相談で、体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは、常に連携をとり、状態が落ち着けば、できるだけ早期退院でき、馴染みの生活に戻れるよう協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方に関しては、本人・家族の意向に沿った対応ができる旨の説明を行っている。	現状として、重度化や終末期のあり方に関して密な対応を要する事例がない。しかし現場には、これらを前向きにとらえようとするムードがあり、実際の実践機会に備える気風が感じられる。	今後は将来的な実践に向けて、管理者・職員間でよく話し合ったり、研修の機会を確保する等、事業所全体における準備や雰囲気作りが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には施設内研修を通して、理解を深め、できるだけ慌てずに対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難経路等をマニュアル化し、全職員が慌てずに対応できるように努めている。	災害時の避難経路等をマニュアル化し、全職員が慌てずに対応できるように努めており、その周知や徹底が進んでいる。	今後は、火事、地震、水害等の実際の災害に備えた訓練の実施が期待される。また、起こりうる災害を想定した地域との協力体制の整備についても、期待されるところである。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴等を考慮し、誇りやプライバシーを損ねないような声かけ・対応に努めている。	入居者に対して不適切な声かけ等が見られた場合は、注意喚起されている。また入居者に対する呼びかけに関しても注意が促され、尊厳をもった態度となるよう、配慮されている。トイレの扉を確実に閉めることは、昨年の外部評価以降、改善が図られている。	今後は入居者の障害や疾患の特性に応じたコミュニケーションや対応の技術の習得が期待される。また、性差に配慮した介護についても工夫されることが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表現することが困難な利用者については何を希望されるかを表情等により、勘案し、自己決定できるように働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位ではなく、利用者の生活リズムやペースを尊重した介護を提供できるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時や入浴後の衣類選びについても出来るだけ本人に決定して頂けるように働きかけ、髪や爪、目やに等をきちんと整容できているかに留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の利用者は準備や片付けを協力して頂いているが、できない方についても嗜好の調査は実施し、希望に副えるよう努めている。	職員には食事に関しても、入居者の真のニーズを理解しようとする姿勢が見られ、食物の好み、硬さ、温度等に関する嗜好調査が日々の食事に活かされている。また、行事食にも工夫が見られ、例えばクリスマスケーキを手作りする等の実践が見られる。	外食の機会が少ないことは職員の間でも関心があり、今後の実践に活かされることが期待される。また職員間には嗜好調査の充実を期する声があるが、写真を提示する等の工夫も期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの性格等を把握し、栄養、水分が確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた介助の方法で口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その日の体調や機嫌にも留意しながら、その方の排泄サイクルを知り、失禁やオムツ使用者の軽減に努めている。	入居者一人一人の排泄パターンに配慮しながら、トイレ等への誘導が行われている。日中はオムツの使用をなるべく避け、パンツ型や尿取りパッドの使用が促されている。	一部のトイレから臭いに関して若干の違和感があった。換気扇を適宜使用する等の簡便な方法で対処できるものと思われることから、鋭意改善に向けた実践を期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘防止の為に食物繊維を多く摂取したり、水分を多く摂って頂き、また、レクリエーション等を通じて身体を動かす機会の提供も心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全ての希望には対応できていないが、出来る限り本人の希望に副えるように努めている。	出来るだけ入居者個々の希望に沿えるよう、柔軟に対応されている。浴槽には毎回入浴剤が用いられ、好評を博している。入浴後は皮膚の保護のため保湿剤を塗布する等の配慮に満ちた取り組みが行われている。	夜間における入浴や毎日の入浴の希望には対応の余地がある。勤務シフト等の前提があり改善には一定の要件が必要であるが、入居者のニーズ表出には粘り強い対応が期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロア内にあるソファに横になって休んで頂くこともあり、家庭的な雰囲気でも柔軟な対応ができるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ある程度の服薬の効能等の理解はできるが、わからないものについては個人のファイルにはさんでいる服薬についての資料を参照している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴等に合わせた特技や趣味を活かしたレクリエーションの提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族からの希望等に柔軟に対応し、外出支援を行っている。また、買い物に同行したり、季節により散歩の機会を提供している。	家族の希望により、帰省や通院の際は、出来るだけグループホームが送迎を担当するよう工夫されている。また二日に一回は近隣のスーパーマーケットへ買い物に行くよう、スケジュールが設定されている。	管理者や職員は、入居者の外出の機会が必ずしも十分ではないと大変前向きに考えられており、今後は外食、季節の行事(祭り、花見等)等のための外出の機会確保が期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為、金銭管理や買い物への同行ができない方については、行事として買い物会(レクリエーションとして施設内で使用できる通貨を使用して買い物の雰囲気を感じて頂く)を実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をしたい等の希望がないこと、また、認知症の程度が重い方が多い為、手紙等の報告も本人の意思等を聞いて職員が記入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ調理や食器の後片付け、洗濯物をたたむ等家事の手伝いをしていただくことで生活感を出し、行事も季節に応じたものを実施し、季節感を出している。	共用空間は大変開放的であり、広々として明るいムードにあふれている。入居者による調理や食器の後片付け、洗濯物をたたむ等の家事も日常的に行われている。レクリエーションの実践も日常的であり、ホーム内に明るい声が響き渡っている。	TVがほぼつけ放しになっている。音や映像を不快に感じる入居者がいないか、注意してみることも時には良いかもしれない。また、共用空間にサブスペースが見られない。今後ニーズがあるのなら、衝立を用いて設定する等の工夫が期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりのニーズに応じて独りで過ごすのが好きな方や他の利用者と話しするのが好きな方にはそれぞれの居場所・環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力してもらいながら、使い慣れた家具等を持参頂き、居心地よく過ごして頂くよう努めている。	衣類には必要な配慮が施され、居室における居心地の良さを演出している。入居者の重度化に伴い、日中のほとんどを共有空間で過ごし、居室には「寝に帰る」のみとなる傾向にもある。	今後は居室には、小物や写真、クラフト教室での作品を置きたいとの声も聞かれた。電話に関するニーズがないとのことであるが、今後はそれらを引き出す関わりも大切となるかもしれない。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力やその日の体調等に合わせた介助の方法について考え、できるだけ自立できるようなケアを心掛けている。		